

《「木の芽時」と黄連（オウレン）の花》

1) あるべき姿とストレス

いつの間にか、介護施設が増え、身の回りでも医療・介護に従事する方が増えました。それに伴って現場での事件・事故の報道に触れる機会も増えています。

先日の新聞記事から、「虐待」という見出しをみて、具体的にどんな「虐待」があったのかと記事の中身を読むと、本来二人ですることになっているベッドからの移動を、ひとりでしたことによる事故でできたと思われる、アザや骨折が見つかったとありました。



意図的な虐待は論外ですが、恒常的人手不足の現場では、夜間など人手が手薄になった隙間に起こりうる事故かも知れないという気がしました。

業務改善命令がでると、現場では、安全と人権尊重と効率追求が、さらに厳しくチェックされることでしょう。あるべき目標が高くなることは良いことですが、もし人手不足が現状のままでは、現状とのギャップがさらにストレスを増大させないかということが気になった一件でした。

2) 木の芽時の生理

ストレスは副腎皮質ホルモンや交感神経ホルモンを増やし、血糖値も上げます。そうした状態が続くと内分泌機能が疲れ、いわゆる腎虚となります。漢方で「腎」は、「肝」を養い、心火が炎上しないよう制御します。「腎」が疲れると、「肝」を養うことができなくなり、「心」がコントロールを失います。「肝」は肝臓だけでなく、筋を支配し、目に症状が出やすいので、瞼（まぶた）がけいれんを起こしたり目が充血したりします。また自律神経を支配しているので、怒りっぽくなったり、睡眠障害や消化器症状を起こしたりもします。



「心」は言うまでもなく心臓と中枢神経を指しています。コントロールを失うと、不眠、イライラ、多夢、不安感、などの高次神経系の失調症状を起こすほか、血脈を支配しているので、メマイ、健忘、動悸など、心臓と脳の虚血症状が出やすくなります。

以上の症状が現れやすいのが、冬から春へと移行する、丁度今の時期なのです。

3) 実例

慢性肝炎の中老年男性が見えたのが、啓蟄（けいちつ）の頃でした。二十四節季で、生き物が土から出てくるとされる時期です。眠りが浅くて、朝起きて疲れがとれていないとおっしゃるのです。詳しく聞いてみると、向精神薬のんでいても、夜、夢の中で何かと戦い、実際に大声をあげて暴れていたと同居人に指摘されます。

肝性昏睡じゃないかと言われる方があるかもしれません。わたしは、去年の冬から春にかけて、動物園で猛獣に飼育員が襲われる事故が相次いだことを思い出します。

4) 黄連のこと



何らかの原因で冬場に腎陰を養えなかったために、春先に興奮を抑えきれない場合、腎陰を補うことと、肝火や心火を抑えて興奮を冷ますことを平行してやらなければなりません。中国には、腎陰を養う阿膠と、心火を抑える黄連とを主体にした黄連阿膠湯という処方がありますが、日本にはないので天王補心丹と清心元で代用しています。清心元はゴオウ（牛黄）とジャコウ（麝香）が主薬のようですが、阿膠を含む点

が、ワカバ堂で牛黄清心丸でなくて清心元を使う理由のひとつです。

啓蟄の頃に咲く黄連の花を見て、そんなことを思いました。 （虫の一分）